

ぴっぷ議会だより



笑顔に囲まれて
保育士を体験

- 2 審議結果「9月定例会」ほか
- 4 一般質問
- 7 平成30年度決算審議
- 12 議会広報研修会報告ほか

9月24日 比布中学校職場体験学習

この表紙写真は役場で広報係の仕事を体験した寒河江思子さんが撮影しました。

9月10日～12日

第3回定例会 開かれる



ぴっぷスキー場のリフト料金改定 など議案11件を審議

令和元年第3回定例会は、9月10日から12日までの3日間、開催されました。平成30年度比布町歳入歳出決算認定をはじめ、議案11件を審議し、原案のとおり可決しました。一般質問では、3人の議員が町の課題等について、執行側の考え方や方針を問いました。一般質問は、4～6ページに掲載しています。

報告

◆地方公共団体の財政の健全化に

関する法律に基づく報告

平成30年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率を議会に報告し、財政の健全性を示すものです。

実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の4つの指標がありますが、本町の財政はいずれも基準値内で「健全である」との報告がありました。

◆平成30年度比布町一般会計継続

費精算報告書

地方自治法に基づく報告で、比布中学校改築に係る事業が完了したため、事業費について報告されました。

◆放棄した私債権の報告

町が必要な措置を講じたが、債務者の死亡等により徴収すること

ができなくなった私債権を放棄することが報告されました。

認定

◆平成30年度比布町歳入歳出決算

認定

佐藤康則委員長ほか6人で構成する決算特別委員会に付託された決算審議の結果、認定されました。

人事

◆教育委員会委員の任命

任期満了に伴う教育委員会委員の任命について、引き続き、牧野充記氏（中町）を任命することで同意しました。

◆固定資産評価審査委員会委員の選任

任期満了に伴う固定資産評価審査委員会委員の選任について、引き続き、宍戸豊彦氏（1区）を選

任することと同意しました。

条例

◆比布町印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例

住民基本台帳法施行令等の改正により、旧氏による記載及び印鑑登録ができるよう条例を改正するものです。【原案可決】

◆比布町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
子ども子育て支援法の幼稚園、

保育所、認定こども園等の無償化に伴う改正です。【原案可決】

◆びつぷスキー場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

今年10月1日からの消費税率改正に伴い、リフト使用料及び券種が一部見直されました。【原案可決】
なお、町民シーズン券の料金は、据え置きとなっています。詳しくは、びつぷスキー場ホームページをご確認ください。

◆比布町簡易水道事業給水条例の一部を改正する条例

水道法施行令の改正による条例改正です。【原案可決】

補正予算

◆一般会計（第4号）

◆介護保険特別会計（第2号）

◆観光事業特別会計（第1号）

◆簡易水道事業特別会計（第1号）

◆公共下水道事業特別会計（第1号）

補正額と総額、主な内容は左上の表のとおりです。【原案可決】

選挙

◆選挙管理委員及び補充員の選挙

選挙管理委員及び補充員の任期満了（11月11日）に伴い、指名推薦により次の方々が当選しました。

【選挙管理委員】（敬称略）

森田 梨枝子（3区）

合田 浩幸（東町）

宮武 美幸（25区）

近澤 徹司（東町）

【補充員】（敬称略）

石井 由美子（4区）

山口 秀則（2区）

山崎 隆子（22区）

小柳 岳宏（17区）

意見書を提出

第3回定例会において、次のとおり意見書を採択し、それぞれ関係機関に提出しました。

◆林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書の提出について

【提出先】衆参両院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、文部科学大臣、農林水産大臣、経済産業大臣、国土交通大臣、環境大臣、復興大臣

◎意見書とは？

地方自治法第99条に基づき、町の公益に関することについて、国・道など関係行政庁に対して町議会の意思として提出する文書です。本会議に提案し採択された意見書は、議長名で関係機関等に送付されます。

第4回臨時会

10月11日

◆一般会計補正予算（第5号）

補正額と総額、主な内容は上の表のとおりです。【原案可決】

令和元年度各会計補正予算 （第3回定例会）

一般会計（第4号）

709万7千円の増（総額41億6,041万3千円）

■産地パワーアップ事業補助金、保育所措置事業、運動公園管理事業の増ほか

介護保険特別会計（第2号）

4,623万円の増（総額6億5,529万円）

■平成30年度決算確定に伴う繰越金の増ほか

観光事業特別会計（第1号）

190万5千円の増（総額1億4,522万4千円）

■平成30年度決算確定に伴う繰越金の増ほか

簡易水道事業特別会計（第1号）

7万2千円の増（総額2億1,417万円）

■人事異動等に伴う人件費の増ほか

公共下水道事業特別会計（第1号）

42万円の増（総額6,945万2千円）

■人事異動等に伴う人件費の増ほか

令和元年度一般会計補正予算 （第4回臨時会）

一般会計（第5号）

1,900万円の増
（総額41億7,941万3千円）

■無線インターネット施設の改修ほか



町営住宅入居時の 保証人要件の緩和を

村中町長

条件により許可できるよう検討します



遠藤 ハル子 議員

□質問・遠藤議員

町営住宅の入居や更新時に、2名の連署の保証人が求められていますが、保証人の条件が大変厳しく、入居の際に困難をきたしています。

「何年も住んでいた住宅から新しい住宅へ移るとき、保証人がいなくて探しあてた兄弟も高齢となり、頼んでも断られた」「少ない年金では普段の付きあいも少なく、保証人となる人もいない」との声が届いています。

町営住宅は低所得者のために低家賃の住宅を提供することが目的の一つです。低所得の誰もが入居しやすくするためには、保証人の条件緩和が必要だと思います。

次の3点について町長に質問をします。

- ①保証人を2名から1名にすること
- ②収入が少なくても認めること
- ③生活保護世帯の場合、保証人は免除すること

■答弁・村中町長

比布町営住宅管理条例第11条第3項において「町長は、特別の事情があると認める者に対しては、第1項第1号の規定による請書に保証人の連署を必要としないこととすることができ」としております。

①保証人を1名にすることについては、入居後、連帯保証人が死亡などによりその資格を失った場合、変更届を提出することを条件に許可ができるよう検討していきます。

②収入につきましては、連帯保証人が同等程度以下の収入でも公営住宅居住者でなければ許可をします。

③保証人を免除した場合、親族等がないなどで入居者の緊急時の対応や退去手続きができなくなることも1名の連帯保証人が必要であることをご理解ください。

また、約120年ぶりの債権法を中心とした民法改正により令和2年4月1日から連帯保証人を必要とする場合には連帯保証債務の範囲に上限設定（極度額の定め）が必要になり、入居請書に金額を明記し、連帯保証人が同意のうえで連署することになります。

今後とも国土交通省からの標準条例（案）や北海道及び近隣町村の動向を注視し、整備していきます。

□質問・遠藤議員

保証人の「辞任」も考える必要があると思います。例として収入が少なくなった、付き合いが薄くなった、拒否したいなどがある場合、検討の要件に入れてはどうですか。

合、検討の要件に入れてはどうですか。

■答弁・村中町長
それも考えています。

□質問・遠藤議員

家賃の滞納があった時に連帯保証人に通知し、支払いがされたこととはありますか。

■答弁・村中町長

過去において5件80万円ほどの事例がありました。

□質問・遠藤議員

安否確認もできる緊急連絡先を複数人をお願いすることで、保証人という重荷が軽くなり、生活保護受給者も高齢者も住み続けられるようになると思います。

■答弁・村中町長

北海道も緊急連絡先として対応するようですので、今後、研究整備していきます。

□質問・遠藤議員

北町令和団地（仮称）の完成も控えています。比布町営住宅管理条例も当然変えなくてはならないと思います。いつの議論になりますか。

■答弁・村中町長

来年3月議会での提案を目指し、検討を進めていきます。



植西 浩一 議員

地域と学校の連携強化を

北川教育長

学校を中心とした地域ネットワークの形成に努めたい

教育現場と地域の連携について

□質問・植西議員

占冠村では地域と学校が連携し、子どもたちが高齢者との交流を図っているそうです。比布町ではどのように地域との連携を創り、強化しているかと考えていますか。

■答弁・北川教育長

新しく小学校中学校にそれぞれ新学習指導要領が設定され、社会に開かれた教育課程を実現することが望まれるようになります。そのため、地域の方々により関心をもってもらえるように情報発信をし、またスクールソーシャルワーカーにも地域に足を運んでもらい地域との連携を深めていきます。

更に連携・協働関係を強固なものにしていくために、コミュニティ・スクールの仕組みを十分機能させ、学校を中心とした地域ネットワークの形成に努めていきたいと考えています。

□質問・植西議員

学校運営協議会は誰でも傍聴できますか。

■答弁・北川教育長

傍聴は可能です。また広報などを使って内容を町内にお知らせす

ることも可能です。

□質問・植西議員

5教科偏重の学習環境の中で子どもたちそれぞれの興味の対象を生かすことはできますか。

■答弁・北川教育長

現在もできる限りの課外活動を実施し、学校教育でまかなえない部分は社会教育で補いながら、町民との関わりで子どもたちの力を高めていけるように考えています。また、教職員にも積極的に地域に出て地域を知ってもらおうよう努力をしていきたいと思っています。

農業の安定化対策について

□質問・植西議員

農産物を冬期間に供給をする冷凍保管の技術があります。供給量の少ない時期に出荷して収入を得られるようにすれば農業安定化対策となります。また、冷凍することで最も簡単な6次化になるかもしれません。冷凍技術を導入する



ことは可能ですか。

■答弁・村中町長

冷凍技術を導入することは考えていません。年中、新鮮な野菜が販売されていることを考えると冷凍技術により時期をずらして野菜を供給しても需要はないように思います。

また、いちごの冬栽培を今年から始めます。これも農閑期の収入確保になると思います。

□質問・植西議員

生産の安定しない農産物を冷凍技術を使って加工し、特産品開発につなげることも必要ではないですか。

■答弁・村中町長

現在は民間活力を補助する制度があり、特産品開発は必要なときに補助するようにしています。もちろん、PRなどで行政が連携しています。

本町の場合は面積が小さく、生産者が少ない。更に量が取れないということもあり、なかなか大型店に常時安定して届けられないという状況です。そのため、本町を応援してくださる方々に町のものを販売して町農業の発展を目指していくことが大事だと思います。



一般質問 ズバリ！ ここが聞きたい

近くの人を助ける「近助」で 防災意識の向上を

村中町長

自助・互助・共助 そして 近助で 防災意識を高めていきたい



谷口 雅浩 議員

□質問・谷口議員

昨年9月6日に発生した胆振東部地震による停電では、改めて電気の重要性を確認する結果となりました。

本町では素早い初期対応もあり、水道水の供給を止めることなく、また地下水利用世帯では町内14箇所まで給水所を開設できたこと、防災無線やSNSによる情報発信で大きな混乱は防げたようですが、これが直下型の大地震ならどうなるでしょう。次の3点について伺います。

- ① 行政区ごとに避難所が指定されていますが、各避難所の収容人数は何名を想定していますか。
- ② 食料は、昨年の一般質問の回答では、お米2,700食分、乾パン676缶を確保しているようですが、その根拠をお示しく下さい。
- ③ 町では災害時要配慮者の安全確保に努めています、とありますが具体的にお願いします。

■答弁・村中町長

① 「各避難所の収容人数」ですが、指定避難所につきましては、長期的な避難が必要と仮定し、内閣府（防災担当）が推奨する世界基準面積、1人あたり4㎡を各施設の床面積で算出した場合、「比布町体育館・農村環境改善センター」で

は約650人、「比布中学校」は約950人、「中央小学校」は約900人、「遊湯びつぷ」は約1,150人、「多目的屋内運動場」は約250人で総収容人数は約3,900人となり、理論上、全町民の避難は可能と考えています。

② 「災害時の食料備蓄の根拠」についてですが、直下型の大地震が発生した場合を想定し、更に被害の規模を最大震度6弱と予測した場合、家屋の全壊・半壊のおそれがある住宅数273棟（約300人）が避難対象となります。そのうち町民による家庭内備蓄を考慮し、総務省消防庁が提唱する食料備蓄の目安、1人につき最低3日分の水や食料が必要とされていることから、年度代わりや賞味期限の関係で多少の増減はありますが、現在は2,400食を備蓄しています。

③ 「災害時の要配慮者の安全確保」については、災害対策基本法に基づき、避難行動要支援者名簿を作成し、避難支援関係者（社会福祉協議会、警察、消防機関など）と情報を共有して良いかの確認を行ったうえで、平時から見守りが必要な方の把握、災害時の安否確認、避難援助・救助に備えています。

□質問・谷口議員

町長が普段から述べられているとおり、「自助」、「互助」、「共助」が大切ですが、田舎では田舎ならではのやり方があると思います。もし何かあった場合には、近くの人々が近くの人を助ける「近助（きんじょ）」という考え方も必要ではないですか。

■答弁・村中町長

近くの人を助ける「近助」というのは、本当に素晴らしい言葉で、大切なことだと思います。

災害に強い町というのは行政が全てやることではなく、一人ひとりが「自分ができることは自分でやる」という意識のある町が災害に強い町であると考えます。これからも防災意識を高められるよう啓蒙活動を行っていききたいと思います。



平成30年度各会計決算を認定

平成30年度各会計決算は、議長及び議選監査・澁谷興二議員を除く議員7人で構成する決算特別委員会（委員長佐藤康則・副議長）を設置し、9月10日から11日の2日間にわたり、審議を行いました。

定例会最終日の9月12日に、佐藤委員長から「委員会として平成30年度会計決算を認定すべきもの」との審査結果報告がありました。

区分	予算現額	支出済額	差引
一般会計	4,931,314,800円	4,535,772,785円	395,542,015円
国民健康保険特別会計	525,786,000円	492,765,898円	33,020,102円
後期高齢者医療特別会計	65,724,000円	65,341,236円	382,764円
介護保険特別会計	616,326,000円	579,332,818円	36,993,182円
観光事業特別会計	178,521,000円	167,339,041円	11,181,959円
簡易水道事業特別会計	211,056,000円	208,863,368円	2,192,632円
公共下水道事業特別会計	74,560,000円	71,515,908円 翌年度繰越額 1,320,000円	1,724,092円
合計	6,603,287,800円	6,120,931,054円 翌年度繰越額 1,320,000円	481,036,746円

▼一般会計【歳入】

使用料及び手数料

Q 大熊委員

グリーンパークびっぶの使用料について、昨年は天候不順などがあるとのことだったが、今年はキャンプ場を中心にイベントなど集客が良好だったことから、利用料の見直しを図ってみてはどうか。

A 産業振興課長

パークゴルフ利用料については据え置く考えですが、キャンプ場等の利用料については協議を進めています。

寄附金

Q 植西委員

まちづくり応援寄附金が増えているが、財源が不足する中で、より多く寄附金を得ていく必要があるのではないかと。また、返礼品に關しても町の文化を知ってもらえるような返礼品や白寿大学の作品なども設定することで高齢者福祉の面でも意義があるのではないかと。

A 総務企画課長

大手納税サイトを導入してからの増加傾向がありますが、近隣町と比較すると少ない状況でもありません。返礼品についても町内の企業とも協議して新たなものを加えながら努力していきます。また、寄

附金で文化を伝えるのではなく、まずはお礼状等で町をPRしていくのが本質だと考えています。

▼一般会計【歳出】

総務費

Q 今井委員

応援大使事業について、何に對して支援・応援を受けるのか町民にはわかりづらく効果が見えない。スキー場のPRなど、目的を持った大使として考えられないか。

A 総務企画課長

応援大使事業は、町の情報発信・PRに効果があったと考えています。現在も大使の皆さんには活動いただいております。ピップ株式会社とは相互協定を行う結果となっております。

A 村中町長

応援大使については観光大使と異なり、事業にこだわらず大使には町全体の応援をもらいたい、町



8月7日、ピップ(株)との相互応援大使活動開始発表会で腕を組んで入場する松浦社長と村中町長

は大使を応援する双方向の関係を築くものとして実施しています。PR効果は大使のファンや関係者、SNS等を通じ、現れてきているものと思っていますので、単発的な事業ではなく継続的に相互で応援する形で続けていきます。

民生費

Q 植西委員

緊急通報システムについて対象者数に対して実際に機器を設置している方の数や決算額も少ないが、設置要望に対し十分に応えられているのか。また、次世代のシステムへの検討も含め、積極的に普及率を上げる必要があるのではないか。

A 保健福祉課長

緊急通報システムは平成30年度で73台導入されており、決算はリース期間満了により減額となっておりますが、必要な方には周知や設置もされていると認識しています。必要最低限の台数については確保していますが、更に必要という声があれば対応します。

衛生費

Q 遠藤委員

特定健診について受診率が52.3%で目標より低く、原因を把握しているのか。また、受診しない



総合特定健康診査の様子

理由は様々だが、保健推進委員との連携強化に加え、後期高齢者の健診料を無料にすることから検討できないか。

A 保健福祉課長

受診率が上昇しない理由については、高齢で医療機関にかかっている方の受診率が低くなっており、医療機関や地域包括支援センターとも連携を図りながら対応しています。現状、健診料の無料化についての考えはありませんが、課題としては検討します。

Q 遠藤委員

今回、指定管理者となった診療所に対する町長の考えを聞かせてほしい。また、任せきりにならないように進めるべきと考えるが。

A 村中町長

町の医療は大切だと考えていますが、どこまでの医療や設備が必要なのかも議論しながら町民の健

康を守る大切な場所として維持していきます。

A 保健福祉課長

指定管理者との協議は引き続き行っています。次期指定管理に向けても、これまでの形にとらわれることなく協議をしていきます。

Q 安藤委員

脳ドック検診助成事業について、対象年齢が5歳刻みとなっているが、その時に検診が受けられなかった場合には、対象年齢以外に受ける脳ドックへの助成が必要ではないか。

A 保健福祉課長

現状、対象年齢以外の検診への助成は考えていませんが、検診を受けられない期間が長くなる場合も考えられることから、今後内部協議を行います。

農林業費

Q 植西委員

交流促進施設運営事業について、遊湯びっぶの修繕費の費用が5年間で6,665万円となっているが、他の公共施設と比較しても相当高額であり、観光施設である遊湯びっぶの公共性を考えても、この修繕料の額は適切なのか。また、建設当時と比べると経済状況が良くない中で、観光にお金をかけるべき時期なのか。

A 村中町長

遊湯びっぶの設置目的は、憩いの場、情報発信の場であり建物の設備が異なりますが、過剰な修繕を行っているわけではありません。本町に足を運んでいただく施設があるということは観光だけではなく、地域経済に少なからず効果はあると考えていますので、個々の施設だけの収支という狭い範囲では町の損失とは考えてはいません。

Q 谷口委員

ほくれいスカイロードについて利用者が増えているように思うが、道路が狭く安全面を考えても整備計画はあるのか。

A 産業振興課長

カーブミラーの設置や支障木の伐採などは問題があれば行っていますが、道路の拡幅等の協議は現在行っていないです。

商工費

Q 今井委員

雪番屋の修繕料について当初は雪番屋を廃止してセンターハウスで対応する計画であったはずだが。

A 産業振興課長

建設の協議を進める中で、事業費の関係から現在の形となりました。現状、リフトの配置やレンタル業務などから雪番屋は必要な施設となっております。

A 村中町長

建設後の実施運営も大切だと考えていますので、財政への影響も踏まえると現在の状況が適切と考えています。

土木費

Q 大熊委員

町道の除雪状況は適切で高評価ではあるが、今後の人材確保の対策について、条件改善を含め考えているのか。

A 建設課長

現状、人材不足の問題はありませんが、除雪職員の協力もあり維持している状況です。また、待遇改善も行っています。

Q 谷口委員

16号道路が大雨で冠水して通行止めになることが多いようだが改善の考えは。

A 建設課長

16号道路については、山からの水が集まりやすく、特に大雨の時



8月9日の大雨で冠水した16号道路

には排水が処理できないことで冠水してしまいます。改善の必要があり、今後検討していきます。

消防費

Q 今井委員

高速・高規格道路の対応や高齢化への対応で、救急車両を新たに増やす必要性はないのか。

A 消防署長

30年中の救急車の出勤回数は町内で214件、高速・高規格道路の対応は3件となっており、今の体制で対応できると考えています。

教育費

Q 今井委員

中学校改築事業が終了して今年から小中一環としての違いと、高校へのステップとしての考えは。

A 北川教育長

小中一貫教育については、従前より研究実践を進めてきたところですが、小学6年から中学1年となる際のギャップの解消や小中学校の教育課程の連携などありますが、小中学校の間に教職員が行事や学校生活を通じ子どもたちに接する中で、地域の方とも連携しながら子どもたちを育てていく機会なども考えます。

また、現在の保育園に加え、高校との連携についても今後進めて

いきたいと考えています。

Q 植西委員

小中学校の修繕費について、過去にメンテナンスがされないことにより高額な改修費用となることがあったが、学校の長寿命化を考えると、あまり考慮がされていないのでは。

A 生涯学習課長

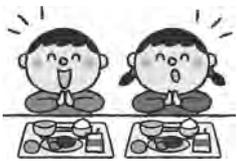
可能な範囲は現場で対応している状況もありますが、専門的な部分に関しては定期的に専門業者によるメンテナンスが必要と考えています。

Q 安藤委員

学校給食について、消費税が上がることで、今後金額が変わるのか。

A 生涯学習課長

現在、集めた給食費については、全てを食料費に充てています。食料については軽減税率の対象となりますが、価格全体が高騰していることから、給食費の値上げについては検討しています。



▼介護保険特別会計

Q 遠藤委員

施設介護サービスの給付費が減少した要因と今後の介護施設との連携は。

A 保健福祉課長

施設の減少だけでなく在宅給付も減少傾向にあり、その年により介護状況も変わることから明確な要因は特定できませんが、ケアマネージャー等が間に入り、施設が必要な在宅が必要なのかを調整していきます。

▼観光事業特別会計

Q 今井委員

リフト使用料について、当初予算を下回った要因について分析しているか。また、スキー場はあくまでも日本人向け、また、ファミリー層向けを目指す営業方針としていくのか。

A 産業振興課長

要因として天候以外では、外国人客は目立ってきていますが、日本人客が減少している状況です。基本的な方針は町民や近隣の方々に利用してもらうことを中心に考えていますが、情勢によっては新たな協議も必要になると考えます。

委員会の activities



総務常任委員会

8月28・29日開催

【税務住民課】

《報告事項》

■令和元年度町税の課税状況

■令和元年度町税等の収納状況（7月末）
滞納者に対し7月末日期限の介護保険17件、後期保険料11件を8月27日に督促状を出した。

■上川広域滞納整理機構の収納状況等
19件約400万円を滞納整理機構に引き継いだ。うち、11件約72万9千円が収納されました。

《協議事項》

■比布町印鑑の登録及び証明に関する条例の一部改正
旧氏で印鑑登録ができる改正。

政府の女性活躍社会、北海道の男

女共同参画推進による背景がある。結婚、保険、携帯契約、銀行口座転職の場合などで旧氏が使用できるようにになりました。（11月5日から施行）

《その他》

■年金生活者支援給付金

年金機構から対象者に案内が届き、申し込みが必要。詳しくは広報ぴっぷ9月号に掲載。

■固定資産税評価委員の選任

■消費税増税後の対応

近隣町の動向をみて報告します。

【保健福祉課】

《協議事項》

■第3回議会定例会提出議案

■比布町特定教育・保育施設及び特定地域保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正案

◎主な改正点

①食事の提供に要する費用の取り扱いの変更

②市町村長が認めた場合における連携施設の確保義務の緩和及び免除の規定

■保育無償化になるが、副食費は4,500円を徴収するの。

A徴収する考えです。

■保健福祉課関係補正予算案 2件

《その他》

■ぴっぷクリニック死亡診断書料過誤納付金返還手続きに係る進捗状況
返還対象件数は237件で、案内送付件数210件、返金件数172件、残りの27件は住所不明で返送されてきています。

■町立診療所における指定管理者制度導入後の業務運営について

■火葬場工事の進捗状況について
令和元年5月から工事を始め、令和2年2月末日完了予定。



建設中の比布火葬場

【総務企画課】

《報告事項》

■第3回議会定例会提出議案

報告3件、認定1件、議案11件、選挙1件について

■放棄した私債権の報告

水道料金5名1万7千円（費用超過）、6万5000円（所在不明）、住宅使用料1名17万5,500円（費用超過）、合計25万3千円を条例により報告する。

Q「費用超過」とはどういうことが基準を示してほしい。

A債権を回収する費用が債権額を明らかに上回る。また相手が死亡したケースもあります。

■令和元年度普通交付税の決定
17億3百万円（前年度より2,960万円の増）

■令和元年度人事院勧告

■その他

令和2年度職員採用試験／比布町防災ガイドマップの作成／運動による脳の活性化事業／「ヴィレッジ・バイ・ヴォレアス」の活用状況／ピップ株式会社との相互応援大使活動／観光列車「風っこそや」号運行についてなど



大人気だった観光列車「風っこそや」号

《協議事項》

■第3回議会定例会提出議案
◇地方公共団体の財政健全化に関する報告

平成30年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率。実質赤字比率はゼロ、実質公債費比率10・1%、将来負担比率26・8%、資金不足なし。

8/29 総務常任委員会現地視察

総務常任委員会では所管する課の施設を視察し、それぞれ担当者から課題や現状について話を聞きました。



ぴっぷクリニックでは医療機器等の現状について説明を受けました。



旧中学校体育館にはバレーボール専用シートが敷かれていました。

◇一般会計継続費精算報告書

◇平成30年度比布町歳入歳出決算認定

◇令和元年度一般会計補正予算(第4号)

J R北海道の維持困難路線に対する沿線(関係)自治体支援額決定に伴い、宗谷本線活性化協議会に対し負担金として支出します。

負担割合は2億円のうち、北海道が7割。残り3割は、名寄以北が赤字のため8割、士別以南は2割とし、それぞれ人口割と財政割に基づき負担額が算出され、本町は17万2千円の支出となります。

◇選挙管理委員及び補充員の選挙
◇会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例素案について

【生涯学習課】

《協議事項》

■教育費関係補正予算案

3件3、881万3千円を補正。ぴっぷ球場、落雷被害による修繕料ほか。

《報告事項》

■比布町教育委員会事業の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検・評価について

■運動と脳の活性化事業

大阪教育大学穴戸隆之准教授の研究に基づき、小学5年生の体育の時間に腕時計式心拍数と運動有能感を測定し、「脳がどう活性化するか」を研究中。

■学校運営協議会

第2回協議会を8月27日に開催。3人から情報提供を受け、グループ

プ討議、全体交流。次回は12月5日に開催予定。

■小学生学習支援事業「ぶっくん寺子屋」

小学生を対象に夏休みの3日間開催。ボランティア延べ16名、児童60名程度が参加。今後は教員・OB等に限らず地域ボランティアの確保、新しい人材の発掘が課題。

■中学生チャレンジゼミ

中1・2年生は9月と11月に4枠、3年生は9月と10月に3枠、学習塾「旭川練成会」本校にて開催。

■図書館蔵書点検

図書館の不明本2冊、小・中学校では15冊。

■令和元年度比布町文化賞及び文化奨励賞

1名が推薦されました。

総務常任委員会

10月11日開催

【保健福祉課】

《協議事項》

■衛生費関係補正予算案

【総務企画課】

《協議事項》

■総務費関係補正予算案

産業建設常任委員会

9月2日開催

【産業振興課】

▽商工・観光部門

《報告事項》

■令和元年度各施設の利用状況
◇グリーンパークぴっぷ(全施設合計)

利用者数 1万1,879人

金額 343万6,984円

◇地域ふれあい館

利用者数 639人

協力金 18万9,960円

■各イベント等の実施状況

◇良佳村フェスティバル

入場者数 約2,500人(延べ)

◇いちご狩り

開園期間 6月10日～7月6日

農園数 9農園

来園者数 1万3,200人

◇丸ごと水田!泥んこだらけのバレー大会

参加チーム数 22チーム

来場者数 450人(延べ)

◇七夕天国

P G大会 37人参加

玉入れ競技 16チーム参加

農産物でGO 24チーム参加

輪投げ競技 29チーム参加

カラオケ 16組19人参加

《協議事項》

■令和元年度びっぶスキー場営業方針案及びリフト料金改定案

◇営業期間は12月1日～翌年3月22日。10月からの消費税増税に伴い、金額設定及び券種を見直す。

■第3回議会定例会提出議案

◇びっぶスキー場の設置及び管理に関する条例の一部改正案

◇観光事業特別会計補正予算案

▽農林部門

《報告事項》

■各農作物の作付計画

◇水稲作付状況

件数 146戸

面積 149,476.4㍓

■経営所得安定対策について

《協議事項》

■農林業費関係補正予算案

【建設課】

《報告事項》

■建設工事の発注及び進捗状況

◇町営住宅関係 6件

◇土木維持補修関係 26件

◇上下水道関係 2件

◇建設課以外の工事 7件

■道路環境整備事業等の実施状況

《協議事項》

■第3回議会定例会提出議案

◇簡易水道事業特別会計補正予算案

◇公共下水道事業特別会計補正予算案

◇比布町簡易水道事業給水条例の一部改正案

◇私債権の放棄について

【農業委員会】

《報告事項》

■令和元年度産水稲損害評価に関する調査方法の変更について

■農地法及び基盤強化法による農用地集積状況について



【産業振興課】

《報告事項》

■第3期指定管理料について

10/11 産業建設常任委員会現地視察



冬いちごの実証栽培の様子を視察しました。

報告

全道町村議会広報研修会

8月20日(火)、札幌市で全道町村議会広報研修会が開催され、関係する議員と議会事務局職員など、道内113町村、569名が参加しました。

講師に「月刊総務」編集長の豊田健一氏を迎え、「読者目線で親切的な広報誌を作るには」と題して講演がされました。

豊田氏は「議会の活動状況を広く住民に情報提供されているか」、「住民の声をくみ取り、住民と議会の意思疎通を図っているか」、「住民の立場に立って編集されているか」と話されました。

広報誌の発行目的は、住民と議会との良好な関係を作り、住民が

議会への関心を高め、議会と共により良い地域社会を作っていくことです。単に定例会の報告だけでなく、議会の機能や閉会中の活動がわかりやすく住民に伝わる内容になっていくかということ。改めて広報活動の重要性を知ることができました。

また、豊田氏から道内5町の広報誌に具体的なアドバイスがなされ、編集にあたっては、文字ばかりでは読む気にならない、写真や色の変化が必要である等さまざまな情報技術を学びました。

これからも住民の皆様につながる議会広報を目指して努力してまいります。(谷口雅浩)



全道の議員・事務局職員で会場は超満員



軽快な語り口の講師 豊田健一氏



議会広報の大切さを改めて学びました。

7/9

北海道町村議会 新任議員研修に参加

参加者 安藤 裕子

大熊 勝幸
山口 雅浩

7月9日、札幌市で新任議員研修会が開催され、本町から3名の議員が参加しました。

本年は統一地方選挙が行われ、多くの町村で議会議員に初当選された方もおられ、全道99町村、約255名の議員が参加し、議員の基本使命、会議原則、会議の進め方、政治活動費、議員の福利制度などについて、短い日程の中で盛りだくさんの研修内容でした。

議員の基本使命である全住民の代表者であることを心にとめ、会議原則に従い、意思決定機関である議会での発言については、しっかりと責任の取れるものでありたいと思います。(安藤裕子)



8/31-9/1

全道女性議員協議会 研修会に参加して

参加者 遠藤ハル子

安藤 裕子

8月31日と9月1日の2日間、旭川市で第67回北海道女性議員協議会研修会が開催され、全道の女性議員77人が参加しました。

講演では「女性と議会」について北翔大学の相内眞子教授から、より多くの女性を議会へ送るために、社会的性差による政策課題、政策志向などの観点から、女性議員を増やすためにはどうすればよいのかお話をいただきました。

道議、市議、町村議会それぞれ活躍する女性議員が一堂に会し、懇親を深める中で、他の議会の様子や協議の進め方、取りまとめ方など多くのことを学ぶ機会となりました。(安藤裕子)



ようこそ比布町へ！ 行政視察来町



8/27 共和町議会 議会運営委員会



8月27日、後志管内の共和町議会議会運営委員会（赤澤秀美委員長）委員ら9人が比布町役場を訪れました。

「常任委員会の定数」をテーマに本町議会における経過と現状を説明した後、中本議長らと意見交換を行いました。

9/4 蘭越町議会



9月4日、蘭越町議会（富樫順悦議長）議員ら12人が本町のSNSを活用したまちづくりを学ぶため来町しました。

エクスマプロジェクト事業の検証や現状などを本町担当者が説明。続いて村中町長による講演が行われました。

10/9 浜頓別町議会 総務福祉常任委員会



10月9日、浜頓別町議会総務福祉常任委員会（淡路俊昭委員長）委員ら6人が本町を訪れ、介護保険予防事業の取り組みを視察しました。住民主体のサロン活動を見学し、一緒に「ふまねっと運動」を楽しみ、交流を深めました。

議会のうごき

8月

- 6日 滋賀県湖南市商工関係者来町・歓迎交流会
～7日 (町内、議長・副議長)
- 7日 森林・林業・林産業活性化促進議員連盟連
絡会定期総会 (札幌市、産建委員長)
- 8日 鷹栖町町制50周年記念式典 (鷹栖町、議長)
- 11日 北口ゆうこう道議と語る青空の集い
(士別市、議長)
- 13日 戦没者追悼法要 (比布霊園、議長)
- 19日 家畜慰霊祭 (中央ふれあい広場、議長)
- 20日 全道町村議会広報研修会 (札幌市、委員)
- 23日 上川中央部市・町議会議長会定例会議
(役場、議長・副議長)
- 27日 共和町議会議会運営委員会行政視察来町
(役場、議長・各議員)
- 28日 総務常任委員会～29日 (役場、委員・議長)
- 31日 北海道女性議員協議会研修会～9月1日
(旭川市、各議員)

9月

- 2日 産業建設常任委員会 (役場、委員・議長)
- 4日 蘭越町議会行政視察来町 (図書館、議長)
- 5日 議会運営委員会 (役場、委員・議長)
- 6日 戦没者追悼式 (改善センター、全議員)
- 8日 比布中学校学校祭 (中学校、各議員)
- 10日 第3回議会定例会～12日 (役場、全議員)
決算特別委員会 (役場、全委員)

- 12日 議会広報特別委員会 (役場、委員)
議会運営委員会 (役場、委員・議長)

10月

- 4日 小さくても輝く自治体フォーラム～5日
(群馬県南牧村、各議員)
- 6日 ささき隆博衆議「ふるさとの集い」
(旭川市、議長)
- 8日 上川・留萌管内女性議員研修会～9日
(和寒町、各議員)
- 9日 浜頓別町議会総務福祉常任委員会行政視察
来町 (役場ほか、議長)
- 11日 総務常任委員会 (役場、委員・議長)
議会運営委員会 (役場、委員・議長)
第4回議会臨時会 (役場、全議員)
産業建設常任委員会 (役場、委員・議長)
- 17日 上川管内町村議会議長会研修会～18日
(愛別町、議長)
- 18日 議会広報特別委員会 (役場、委員)
- 23日 総務・産業建設常任委員会合同行政視察
調査～24日 (今金町、各委員・議長)
- 25日 議会広報特別委員会 (役場、正副委員長)
- 27日 中央小学校学芸会 (小学校、各議員)
- 28日 上川町村議会議長会役員会 (旭川市、議長)
- 29日 上川管内町村議会議員研修会
(美瑛町、各議員)

編集後記



今年の夏はお祭りへ出掛けて夏が過ぎました。また研修会や会議開催にも出席が多い夏でした。あつという間…早いと年を感じると言います。

あの方、この方とあいさつをする
と、元気な様子や病気をしていたな
ど立ち話に花が咲きました。その中
でも比布町との友好都市の滋賀県湖
南市から友人議員夫婦が比布町を訪
れ、びっぶ七夕天国とともに楽しみ
ました。湖南市の副市長、商工会の
方々も訪問されましたので、一
緒に玉入れに参加することができま
した。奥様が棒を持ち、友人が玉を
拾っている様子が町の広報紙の写真
に載っていました。北海道へは3回
目だというので、また遊びに来てほ
しいと思いました。議員活動とは…
を考えさせられた夏でした。

(遠藤 ハル子)

議会広報特別委員会

- 委員長 安藤 裕子
- 副委員長 谷口 雅浩
- 委員 遠藤 ハル子
- 委員 佐藤 康則
- 委員 大熊 勝幸